

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)				平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
		国語	数学	国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	37	38	30	16.5	23.6	学校	404	
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489	
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)						平均無解答率(%)				
		国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語	
3年	学校	42	42.2	31.5	38.0	28.1	38.4	15.8	11.4	20.0	20.2	16.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.6	12.1	11.0	7.4
2年	学校	32	43.6	29.4	27.8	27.4	33.4	16.0	10.9	24.2	12.2	17.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	24	39.7	39.2	34.3	44.9	42.2	23.2	6.4	17.3	9.4	9.6
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】	
		(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	
3年	学校	40	99.3	96.1	88.4	64.0
10月15日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
2年 男子	学校	34.15	29.17	47.15	50.08	74.85	-	8.17	201.46	22.18	42.13
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	24.54	19.08	51.93	42.50	52.23	-	9.66	157.75	13.75	49.00
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語> 平均正答率の全国比は、ここ3年間上昇しているが、無解答率は昨年より上昇してしまった。全国と比較して、平均正答率はいずれの領域も下回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと」「聞くこと」の領域において全国平均との差は昨年度を上回った。「書くこと」「読むこと」の領域においては、全国平均をそれぞれ21.1ポイント、20.6ポイント下回っているが、年々全国平均との差は縮まりつつある。

<数学> 平均正答率の全国比、無解答率はいずれも昨年度を上回った。領域別にみると、全国と比較した差が「関数」の領域においてのみ、昨年度の値を下回った。

<理科> 全国と比較して、IRTバンド下位(1,2)が43.5ポイントも上回ったことから、基礎的な学習項目の習得に課題があることがわかる。

【今後に向けて】

<国語> 語句の用法、叙述の仕方、表記などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題の正答率が低かったことから、多様な文章に接する機会を確保することで、基本的な語彙力の向上や根拠を考えながら記述できるよう働きかけていく。

<数学> 依然としてすべての分野において、正答率は全国の値を下回る状況であり、基本的事項の習得が不可欠である。反復した演習や小テストでの理解度の確認を取り入れるなどして、定着を図っている。数学が比較的得意な生徒には、発展問題などの問題に取り組み、応用力を高めることにも努めたい。また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、表現する力を高めていく必要がある。

<理科> 理科を好きだと感じている生徒は多く、抽象的な概念の習得に当たってはICTを活用し、イメージしやすいように工夫する。自然現象の理解については、観察や実験を可能な限り増やすように心がけており、受験レポートなどを作成させることで表現力の向上もはかっている。

○中学生チャレンジテスト(3年)

【成果と課題】

いずれの教科においても平均点は、府平均・市平均を大きく下回る結果となった。

<国語>

成果:平均点は府平均を21.9ポイント、市平均を22.6ポイント下回り、無回答率では府平均を9.0ポイント、市平均を9.7ポイント上回った。

問題番号1、4、5などのように、選択式問題については、正答率では大阪府・大阪市平均を下回っているものの、無回答率では0%を記録しているものがあり、また同一母集団での無回答率の府平均・市平均との差は、昨年より小さくなっており、テストについての回答意欲は向上している。

課題:問題番号四6(2)においては無回答率が60%、ほかにも問題番号三4や5、五5(1)などは無回答率が40%を超える結果となっており、自分の意見を文章化して答えることに苦手意識を持つ生徒は依然として多い。

<社会>

成果:平均点は府平均を19.7ポイント、市平均を20.0ポイント下回り、無回答率では府平均を4.8ポイント、市平均を5.6ポイント上回った。

問題番号1(1)～(4)、2(1)③、2(2)②、④、(3)①、③など、選択式問題では無回答率0%を記録した。同一母集団での無回答率の府平均・市平均との差は、昨年より小さくなっており、テストについて解ける問題を見つけて諦めずに取り組むことができた。

課題:50点以上の生徒が6名で2年時と変わらず、上位層の得点を引き上げることができなかった。問題番号3(3)①や4(1)④などの資料に示された情報をもとに考察し、説明することができるかを問う問題の正答率が極端に低く、基礎的な知識を増やすことの大切さと、それをもとに説明するアウトプットする力の重要性を改めて実感した。文章で説明する問題において無回答率も高く、あきらめない姿勢で取り組めるように働きかけて行く必要がある。

<数学>

成果:平均点は府平均を15.9ポイント、市平均を16.3ポイント下回り、無回答率では府平均を7.9ポイント、市平均を8.9ポイント上回った。

平均点の府平均点・市平均点との差は、昨年より小さくなっている。問題番号1(2)～(3)、3(1)～(3)、3(6)、4(1)～(3)など、数と式、図形、関数、データの活用の各分野において、知識・技能を選択式で解答する問題に対する正答率が比較的高く、無答率も低い。一方、問題番号6(1)②、6(2)、7(3)、8(2)②など、関係を式で表したり、筋道を考えて証明したり、データを読み取り判断の理由を説明するなど、思考・判断・表現についての問題での無回答率が極端に高かった。

課題:基礎的な計算力は高まってきているが、短答式や証明など記述問題における無回答率が高いため、自分の考えをあきらめずに自分の言葉で表現する力を

育てる必要がある。

<理科B>

成果:平均点は府平均を17.9ポイント、市平均を18.4ポイント下回り、無回答率では府平均を9.2ポイント、市平均を10.8ポイント上回った。

昨年同様、正答率は低いものの前向きに取り組んでいる。問題番号4(1)②のエネルギー分野での思考・判断・表現の問題では、正答率が大阪府平均を上回ることができた。問題番号4のように実験について問う問題には積極的に取り組んでおり、日々の授業で積極的に実験を取り入れた授業づくりをした成果が出ているといえる。

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

<英語>

成果:平均点は府平均を14.8ポイント、市平均を16.0ポイント下回り、無回答率では府平均を9.5ポイント、市平均を10.4ポイント上回った。
問題番号1、2、3のように聞く領域で、短いやりとりを聞いて話し手の意向を正確に理解し会話の続きとして適切な応答を選択する問題や説明を聞き、説明の概要を捉えて内容の要点を適切に把握する問題での無回答率は大阪府の無回答率を上回っており、問題に対して答えを導きだそうとする様子がみられた。

課題:すべての分野において正答率は大阪府の正答率を下回る状況で、基本的な学習内容の定着が必要であることが分かった。とくに書く領域での記述問題に対する無回答率は高く、今後も語彙力をあげ、様々な英語表現に触れる機会を増やし、正確に英語を書く力の向上をはかることが大切である。

【今後に向けて】

<国語>

授業において個人の学習状況と漢字検定の受験級に合わせた漢字の学習の時間をとっており、学習の基礎となる文字の知識を増やせるよう取り組む。また、引き続き読解力向上に向けて、教科書の文章の朗読、読解の練習問題などを行うことで、文章への苦手意識を改善するよう努めていく。さらに記述式問題への苦手意識を克服するため、授業内で「考えて書く時間」を設定し取り組んでいく。

<社会>

入試に向けて、重要語句を覚えることなどの基礎的な理解と応用問題の両方を平行して学習していく。教科書に載っている資料について、繰り返し確認し復習を重ねていく。また、問題集を活用し、多くの問題に触れ粘り強く取り組む力を伸ばす。

<数学>

すべての分野において正答率は大阪府正答率を下回る状況であり、基本的事項の習得が不可欠である。授業の中でも反復演習や既習事項の復習を行い理解度を確認し学習内容の定着を図る。数学が比較的得意な生徒には発展問題など、様々なパターンの問題に取り組み、応用力を高めていく。また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、教科書の言語で発表・表現する力を高めていく。

<理科>

自然現象の名称や実験器具の名称など、本来なら正答率が上がるはずの基礎的な内容の定着が不十分なため、スモールステップでの反復演習や小テストを実施し、基礎的な知識の定着を図る。また、文章や資料を読み取り、今後どのように変化するかなど想像する力を養い発表させるため、今後も実験等の体験的な学習を積極的に行っていく。

<英語>

引き続き、英単語や英文法などの基本的な内容を定着させることができるよう指導していく。また、生徒が無回答になることがないように指導をしていく。

○大阪市英語力調査(GTEC)において

【成果と課題】

成果:昨年度の結果に比べてトータルスコアは10点ほど減少したものの、リーディングとリスニングにおいて、リーディングは約6点、リスニングは約10点向上することができた。

課題:昨年度に比べてリーディングとライティングの点数が向上したものの、ライティングとスピーキングのテンスはそれぞれ約10点ほど減少しているため、アウトプットの学習時間があまりとれなかったことが点数にも反映されていると考えられる。

【今後に向けて】

ライティングおよびスピーキングの点数の向上に向けて、生徒がアウトプットを行うことができるように、授業を展開していく必要があると考えられる。また、英語を使って表現することに苦手意識をもつ生徒に対しては学習用タブレットなどICTを活用して生徒がアウトプットの活動を行うことができるように支援を行っていきたい。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査(2年生)

<結果の概要>

体力合計点は男子、女子ともに全国平均を上回る結果となった。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答状況の肯定的な回答は男子92.9%と全国へいきんを「上回り、女子70.0%と全国平均を下回る結果となった。1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は男子は0%、女子は6.7%となった。

【今後に向けて】

男女ともに反復横跳び、20mシャトルラン、50m走結果が全国平均を下回る結果となったので、より一層普段の授業から数値の強化に結び付くような運動を取り入れていきたい。

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

(1年国語)

成果:問題番号一1、一2②、二1～2、二5、三1、三2、三4②のように、正答率では全国を下回っているものの、無解答率では0%を記録しており、テストについての意欲は持っている。一4や二3のように大阪府正答率を上回るものもあった。

課題:問題番号三5、五2において無解答率が60%を超えており、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することや、文章全体と部分との関係を考え、内容の理解に役立てることに苦手意識を持つ生徒が多い。

(2年国語)

成果:問題番号一1、一2②～③、一4、二①～③、二6、三1、三3、四1、五3、五5(1)などのように、正答率では全国を下回っているものの、無解答率では0%を記録しており、テストについての意欲は持っている。授業において、読解力向上に向けて、漢字の練習や教科書の文章の朗読、読解の練習問題などを行うことで、文章への苦手意識を改善するよう努めている。

課題:問題番号一3③、四4～5においては無解答率が50%、一3②、三5、五5(2)などは無解答率が40%を超える結果となっており、自分の意見を文章化して答えることに苦手意識を持つ生徒が多い。

(1年社会)

成果:問題番号3(2)では市正答率を上回っており、乾燥した地域で暮らす人々の衣服と自然環境を関連づけて考察することができている。問題番号(1)①も市正答率を上回っており、日本と東アジアとのかかわりについての理解をもとに、複数の地図を読み取ることができている。

課題:問題番号7(2)の正答率が12.5%と、記述問題の苦手意識が高い生徒がほとんどである。正答率度数分布では、50%台以下が約83.3%にも達した。

(2年社会)

成果:正答率は3つ問題(問題1(3)①と問題4A(2))以外はいずれも府正答率を下回った。無解答率は府無解答率が6.3%に対して、本校が10.9%であった。ただ、選択問題についての無解答率はほぼ0%で諦めることなく問題に取り組んでいることがわかる。記述式の解答(問題1(2))にも挑戦し、無解答率は15.6%であった。解答しようとする意欲はあるものの、文章を読みこなす力が不十分であった。

課題:問題1(3)③や問題2(4)③など、文章や資料から読み取れる情報をもとに短答式あるいは記述式で回答する問題の無解答率が特に高かった。今後は資料を読み取る練習も多く取り入れたい。基礎となる地図の読み取りや歴史上の動きのあった場所の確認を常時取り入れていくことで解答できる力をつけさせる。重要用語の解説・読解に対しても繰り返し練習問題を解かせることで学習内容の定着をはかる。

(1年数学)

成果:関数で座標の意味を理解しているかを問う問題4(2)(正答率78.3%)や、直線上にない点を通る垂線の作図の問題5(2)(正答率73.9%)などの問題では正答率が比較的高く、無解答率も0%であった。

課題:すべての分野において正答率は府正答率を下回る状況である。特に具体的な事象において数量の関係を捉え、文字式を導き出し、その過程を説明する問題の正答率が低く、無解答率も50%を超えている。すじ道を立てて考える姿勢も養いたい。

(2年数学)

成果:証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかを問う問題(正答率62.5%)、与えられたグラフから、傾きと切片の値を読み取り、一次関数の式 $y=ax+b$ に表すことを理解しているかを問う問題(正答率50.0%)、証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだす問題(正答率50.0%)、与えられたグラフを、事象に即して解釈する問題(正答率50.0%)が、比較的良好に解答できており、無解答率もほぼ0%であった。

課題:すべての分野、問題において府平均を下回る結果となった。文字式に数を代入して式の値を求めることができる問題や、簡単な連立方程式を解く問題、一次関数 $y=ax+b$ の a がグラフの傾きであることが理解できているかを問う問題においても府正答率をかなり下回っており、基礎的な学習内容や計算力の育成も丁寧にやっていく必要がある。

(1年理科)

成果:花のつくりを、外側から順に外していくときに使う器具を理解しているかを問う問題では、市正答率を上回った。また、スケッチのしかたを身に付けているかを問う問題や、示された資料から、アンフェューマを分類する問題、ろ過の正しい操作方法を身に付けているかを問う問題での正答率が70%近くあり、日ごろの実験を取り入れた授業の成果が表れている。

課題:解答が記述式や短答式の問題では、答えることができない生徒が多く、本校の大きな課題である。また、正答率の度数分布より学力中間層を引き上げることが課題であることがわかる。

(2年理科)

成果:地球領域で、圧力の差により生じる現象について問う問題での正答率は府正答率を上回った。粒子領域で発熱反応について理解しているかを問う問題や、マグネシウムと酸素の反応について、実験の状況から、得られる酸化マグネシウムの質量について考える問題での正答率は府正答率に近かった。

課題:酸素の性質と金属の性質についての問題や、天気図で用いられる、天気、風向、風力を表す記号について理解しているかを問う問題、対照実験について理解しているかを問う問題での正答率が、府正答率よりかなり低く、基本的な学習事項から丁寧に指導していく必要がある。

令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

〈1年英語〉

成果:本校の平均点は、府平均点を約20ポイント下回っている。「聞くこと」においては61.3%の得点率をあげている。授業で「聞く」ことを重視しているため、その成果が結果につながったと考えられる。ただ、「書くこと」においては課題が多く、30%程度の得点率である。書くことに苦手意識のある生徒が多く、その意識改善が依然求められている。

課題:生徒のアンケート結果で、わからないところを自分で調べると回答した生徒の割合は約半数で、わからないままにしている生徒も多い。また家庭学習の習慣ない生徒の割合も60%に近い。放課後学習等を実施して、基礎学力の定着もはかっているが、本来の家庭学習の習慣を身につけさせる工夫が必要である。また理解が不十分なまま放置させず、問題を解決する方法を身につけさせることが課題である。

〈2年英語〉

成果:すべての問題において、正答率が府正答率を下回っているものの、問題1から4、6、8(1)、9(1)(2)の問題においては、生徒の無解答率が0%となっており、何とか回答しようとする様子が見られた。授業においては、適宜声掛けを行い、ヒントなどを提示しながら問題を回答できるようにしている。

課題:問題番号5、7、8(3)、9(3)(4)においては、生徒の無解答率が50%を超えており、1年同様、理解が不十分なまま放置させず、問題を解決する方法を身につけさせることが課題である。

【今後に向けて】

〈1年国語〉:授業においては、漢字学習を取り入れることによって語彙力の向上を図る。また、長い文章の読解に対する苦手意識を改善するよう努めていく。

〈2年国語〉:記述問題以外にも正答率が低かった問題としては、漢字を書く問題や、内容を読み取ったうえで、正しい答えを抜き出すものがあげられる。

そのため、日ごろから読めない漢字を随時確認することや、多くの文章を読み、どのような主旨なのか考える教材を数多く取り扱っていく。また、語彙力が不足しているため、授業において語句の意味調べなどの学習をより多く行う。また、年々増加する来日生徒に対しても、日本語に触れる機会を多く確保したい。

〈1年社会〉:授業で学習はしている内容ばかりだが、理解できていないことが浮き彫りとなった。学習内容を整理し、基礎基本を大切にポイントを絞って

授業を進めていく。その中で、小さな成功体験を積み重ね、学習意欲が少しでも高まるようスモールステップを設定していく。

〈2年社会〉:問題文を読み取る力を伸ばすために、授業中の用語解説を充実させ、小テストで確認する。授業で教科書を読む機会を増やす。

定期テスト・実力テストについても文章を読み取ることに重点を置いた問題を作成し、テスト後の解説時間を活用して復習する。基礎知識を伸ばすために、タブドリ・自作PP教材で学習を繰り返し問題に取り組ませる。

〈1年数学〉:すべての分野において平均点は府平均点を下回る状況であり、基礎・基本的事項の習得が不可欠である。進級後も既習の学習内容の反復

した演習を取り入れ、新単元とつなぎ合わせることで定着を図りたい。数学が比較的得意な生徒には発展問題など、様々なパターンの問題に取り組ませ、応用力を高めさせたい。また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、自らの言葉で表現する力を高めていく。

〈2年数学〉:すべての分野において平均点は府平均を下回る結果となった。基礎学力の定着が不可欠であり、反復演習や前学年に遡って復習をする

時間などを設けるなどしていく。数学が比較的得意な生徒には発展問題など、様々なパターンの問題に取り組ませ、応用力を高めていく。

〈1年理科〉:短答式問題の正答率を40%以上にし、記述問題も答えられる生徒が増えるように授業内でも問題を解く時間を増やし、答え方の解説も

丁寧に行う。また、実験内容は記憶に残りやすいので、実験実施後の授業で実験の解説を行い、理解度を上げていく。

〈2年理科〉:選択式、短答式、記述式のいずれも府得点率を20%近く下回っている。1年同様、実験を伴った授業について記憶に残りやすいので、実験の

解説・まとめを丁寧にしていく。

〈1年英語〉:短答式、記述式での無解答率が高いため、基本的な語彙を増やし、英文法の内容理解のために反復演習を行う。

〈2年英語〉:生徒の無解答率を0%に近づけることができるよう、1年生で学習する英文法と英単語を中心に簡単な英文から文章を書く習慣をつけていく。チャレンジテストの結果から英単語や英文法の内容理解が不十分であることがわかったので、各単元ごとに学習内容を復習する時間を設ける。

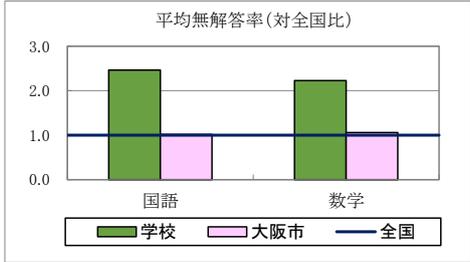
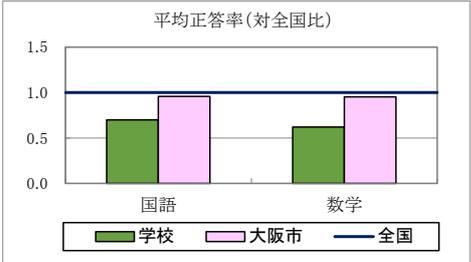
令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	38	30
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	16.5	23.6
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

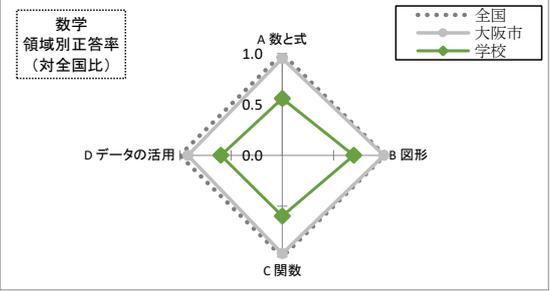
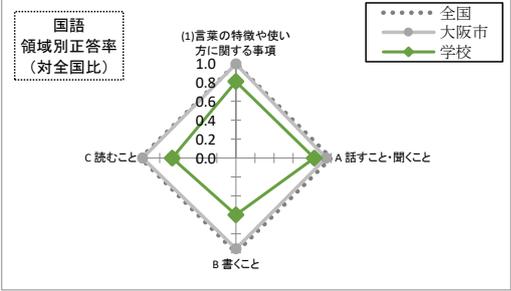
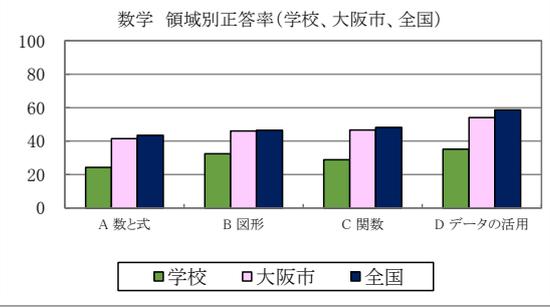
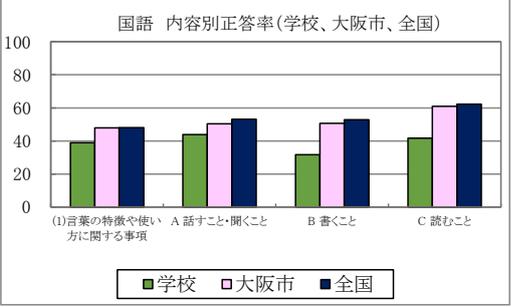


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	38.9	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	43.8	50.4	53.2
B 書くこと	5	31.7	50.6	52.8
C 読むこと	3	41.7	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	24.3	41.4	43.5
B 図形	4	32.4	46.1	46.5
C 関数	3	28.8	46.6	48.2
D データの活用	3	35.1	54.0	58.6

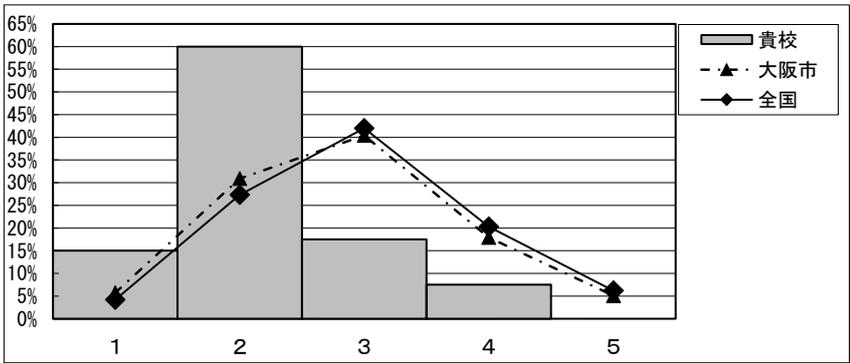
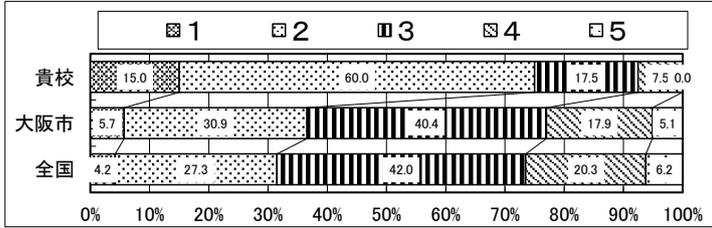


令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	404
大阪市	489
全国	503



令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

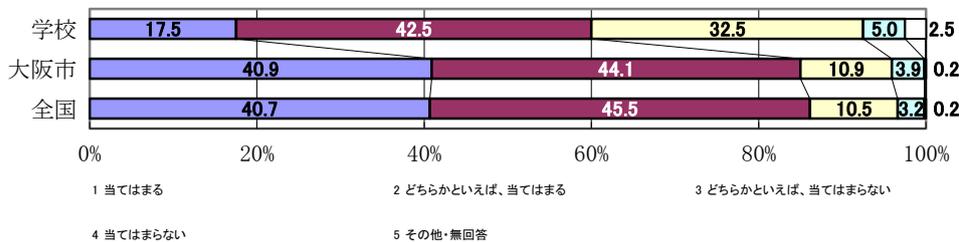
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

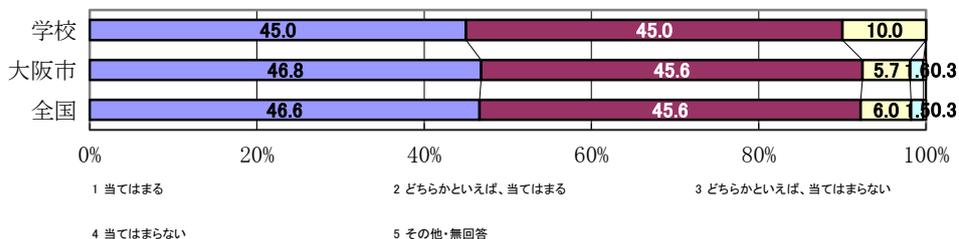
5

自分には、よいところがあると思いますか



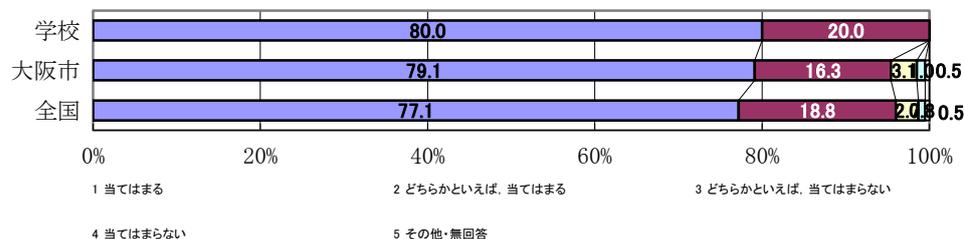
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



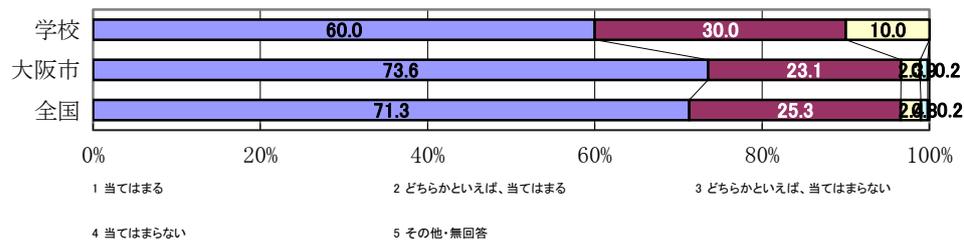
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



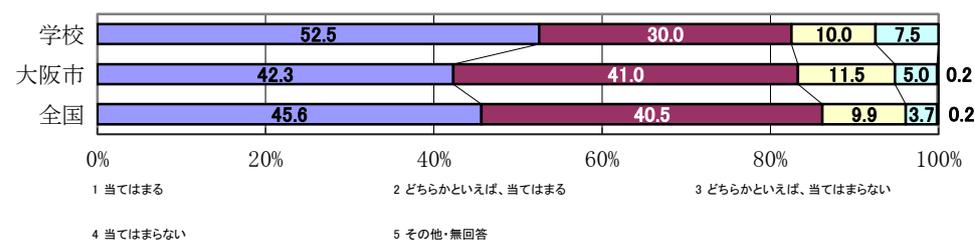
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか

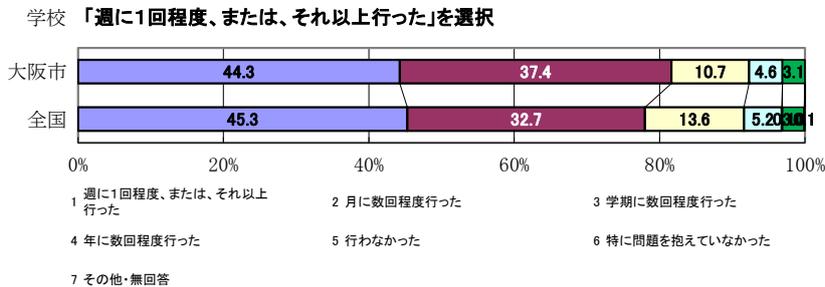


令和7年度 鶴見橋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

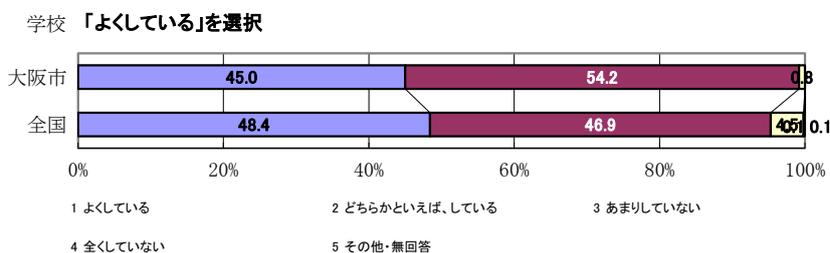
学校質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

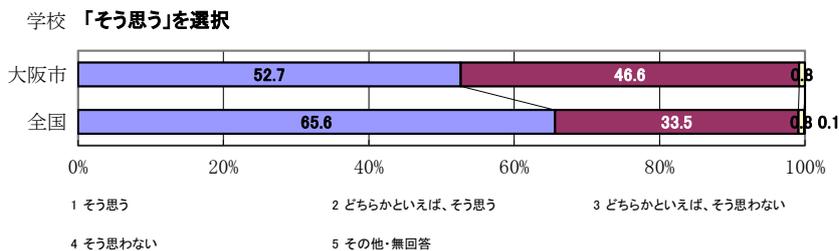
質問番号
質問事項
12
前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか



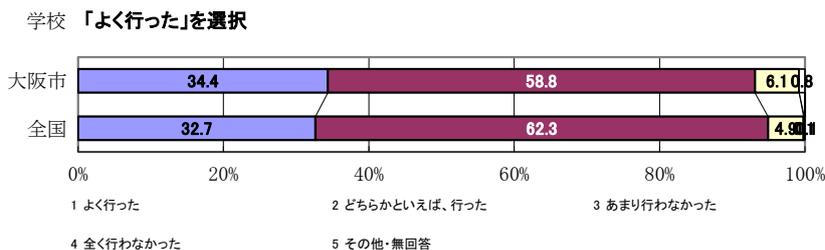
18
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



23
教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思えますか



31
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



67_5
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5) 生徒の心身の状況の把握

